



曲名 ほらね、

いとうけいし 作詩
まつしたこう 作曲

この曲は！

東日本大震災を受けて、〈日本中に歌声を「歌おうNIPPON」プロジェクト〉として制作されたこの曲は、大きな感動をもって、今なお日本中で愛唱されている人気の合唱曲です。『キミウタ』2訂版の新たな選曲として加えられたのは、多くの掲載リクエストが寄せられたからでもあります。4ビートを刻む伴奏に導かれ、歌のリズムが動いていく。有節歌曲スタイルで繰り返しを重ね切々と歌い上げていく。そしてサビの部分が転調することでより高揚感を増していく。語る力と歌心に満ちあふれていて、歌う人も聴衆も感動する名曲です。

藤原式練習法

- ・この曲はまず歌詞、歌詞の関係性をマスターしよう。
川→風、鳥→花、日差し→木の葉、雨→蛙 / 魚→波、山→雲、窓→ピアノ、雪→灯り / 悲しい→寂しい（→悲しい）
- ・次に、ユニゾン部分と合唱になっていく部分を最初に理解しよう。ユニゾンをうまく歌うためには、リズム感や音高はもちろん、歌い回し、抑揚などもそろえていくことが大切で、よい演奏をするうえで不可欠です。
- ・女声は主旋律を歌えたら、女声全員でアルトパートを練習して、メロディー以外も歌える人を増やし、支えのパートの充実を図ろう。
- ・作曲者のまつしたこうさんは、高校生の頃からご自身も合唱部で歌い指揮もされていたので、この曲の男声パートはとても歌いがいい形に仕上がっています。伸びやかな声で男声パートを練習してみてください。

具体的なアドバイス・ポイント

- ・3つのパートの音取りができれば、3つのパートを重ね、他のパートを意識して歌うことが大切です。特に縦がそろっているところ、ずれて歌うところを意識しよう。
- ・みんなで各パートのリズム打ちをして、リズムを格好よく決めよう。特にシンコペーションのリズムが大切！

この曲を 初めて歌う人に

大好きな仲間と、心を寄せ合える仲間と、そして先生と、すてきな歌を歌ってください。
この曲は心から感動する名曲です。

表現を深めよう

慣れてくると、この歌は全員でテンポがだんだん速くなる傾向があります。
語る部分では時間の経過や空気の流れ、風景の移り変わりなどを感じながら歌いましょう。
少し抑制するためをつくることで、切々としたエネルギーが蓄えられ、後半のクライマックスに向かっていけると思います。

より感動的に 歌い上げるための アドバイス

気持ちが高まったところで「ゆっくりそっと～」の部分に差し掛かります。ここで合唱は *p* でソプラノ→アルト→男声と受け継ぎます。ここがとてもすてきなところなので、優しさを込めて、ずっと *p* に落とし、各パートを連結させましょう。
そしてクレシェンドして *f*、*ff* に向かっていきます。この *f*、*ff*こそ作曲者が「うたはあなたの大切なともだち いつもそばにいて大切なともだちだから」と訴えています。
最後のサビの部分は、Bdur（変口長調）からHdur（口長調）へ転調します。半音上がるだけですが、 $\flat$ 2つから $\sharp$ 5つの世界に、大きな扉を開くような転調は感動的です。
そして強弱も1つテンションが上がり、*ff* でスタートします。作曲者の抑えられないエネルギーがほとばしります。若さ、情熱、まっすぐな心をもって、存分に弾けて歌ってください。